

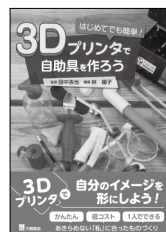
田中浩也（監）、林 園子（編）

はじめてでも簡単！

3D プリンタで自助具を作ろう

田 中 栄 一

（国立病院機構八雲病院，作業療法士）



作業療法室に 3D プリンタがあることで，どんな風景になるのだろうか？

OT が自助具の基本設計までを行い，あとは患者自身が納得いくまで修正を繰り返してもいい，おしゃれでお気に入りのデザインをつくり出すことも可能である。「自分のものは自分でつくる」ことがあたり前になり，3D モデリングの仕事を請け負うこともめずらしくなくなった。これらの取り組みは，すでに国内外の各地で始まっている。

低価格，高精度で入手しやすい 3D プリンタ技術による「ものづくり」は，工学系専門家ではない私たちでも扱える身近なものになった。しかし，「どのように活用したらいいの？」，「何から始めたらいいの？」と困っている方も多いと聞く。3D プリンタを取り巻く環境は，まだまだ過渡期であり，気軽に始められる環境でないのが原因の一つである。3D プリンタ関連の情報は，探そうと思えばインターネットの海外サイトの随所に散らばっている。これらの情報をまとめ，作業療法の臨床場面で有効に活用していくには，お金と時間を惜しまず模索できる力が求められる。この状況を料理でたとえ

るなら，手間暇かけて一品料理を仕上げるシェフのようなものだ。シェフの創る料理を，一般の家庭でも再現してみたい。そんな思いに応え，手の届く範囲の手軽さで構成された，3D プリンタの料理本が本書になる。

東京にある東急大井町線中延駅から徒歩 1 分弱の立地に，ものづくりに関心がある執筆者らが集うファブラボ品川がある。10 人ほどの人数が出入り可能な部屋に，レーザーカッターや 3D プリンタが配置され，「どんな活用が可能なのか？」日々試行錯誤を繰り返している。「発見できたおもしろさを，より多くの人にも知ってほしい」。本書には，ファブラボ品川での旬な今を切り取った情報が描かれている。それゆえ，書籍内で紹介しているハード，ソフトウェアの情報が更新された場合に記事内容との食い違いが生じてしまうこともある。これは，技術書の宿命といわれる点だ。出版後，紹介された 3D モデリングアプリで，大幅なユーザビリティの変更があり，図解記事と内容が異なっている。

本書のみの情報で 3D プリンタの活用が完結することはない。本書をうまく活用する方法は，書籍

内で紹介されているキーワードを検索し，さらなる情報へとつながっていく入り口として捉えることだろう。そして，ファブラボ品川の仲間たちの活動と同じく，仲間をつくり，ヒト・コト・モノを，おもしろがれることがポイントになる。

本書は，自助具のキーワードで構成されているが，まだまだ 3D プリンタを難しそうと感じている方は，興味もてるものから始めてみるという，本書の情報を活用し，ネームプレートや，かわいい小物でもいい，自分で作製するには壁が高い場合は，書籍内で紹介されているデータを出力してみるという，まずは手に触れてみるのが大切だ。

本書を手にしたら，著者らが所属する一般社団法人 ICT リハビリテーション研究会が主催する勉強会や，ファブラボ品川に遊びに行ってみることをお勧めする。きっと，何かが生み出される，そんなワクワクした気持ちが伝染していくだろう。さあ，新しい技術を選び好みしないで，未来の作業療法室を想像してみしてほしい。

B5 判 128 頁 2,800 円＋税
三輪書店 刊
☎ 03-6801-8357